一般質問

・農業問題について

翠巒会 藤原助一 議員

質問 **本市の農業が抱えている稲作問題・農家が抱える負債問題、経営安定対策問題についての対策を伺う。**

答弁 （市長）農業は現在も将来も国の礎であり、今後は知識集約型産業に位置付けられると思う。仙北市は年間六百万人の観光客を迎えており、田沢湖・角館観光ブランド力を高め農産物の付加価値を増す戦略が重要と考える。

これ以上の減反は適切では無いと思う。

負債整理対策として、融資機関や関係団体が連携して長期低利な制度資金の借り換えを指導し誘導策を講じている。

経営安定化対策としては、県農林業振興臨時対策基金の活用や農業夢プラン型戦略作物等生産基盤拡大事業がある。

市では、元気な仙北農業ステップアップ推進事業をつくっていて有効活用も進めている。

関係制度や資金等ソフト面での支援をきめ細やかに行う。

答弁 （副市長）安倍首相は、攻めの農水産業展開の指示を行っている。当市においても、持続的で安定的な農業経営を行う担い手を育成していく必要がある。政府の担い手政策や基盤整備事業も最大利用しつつ、農業経営の担い手、リーダー育成を進めて行く必要がある。地産地消が地元に根付き、6次産業化による高ブランドの農産品を確立出来ればTPP参加の影響は最小限に抑えられるものと考える。

質問 **がれき受け入れに当たり、放射性物質の拡散を心配している人もいる中で、福島、宮城から移住された方々への不安にどう応えるのか。**

答弁 当市では、搬入された不燃系混合廃棄物、浸出水、原水、放流水、近隣井戸水共に、セシウム134、セシウム137は検出されておらず、安全性には問題がない。絶えず関係者、関係機関と情報交換をし、安全性の確認に努めている。

質問 **名産品の創出と若者の市内就職向上についての考えを伺う。**

答弁 商品開発には、商工会や市内の飲食店、食品加工業者、地域運営体、生産者による多様な取り組みがある。すでに商品化し販売もされているが名産品の一歩手前の段階である。当市は、素材が豊富なので、素材を2次・3次加工、流通させることで魅力的な商品の造成が可能と思う。雇用の開発も行っていきたい。

今春、卒業予定の生徒の就職状況については、若干の改善が見られる。今後の景気回復に期待している。引き続き雇用対策に傾注したい。

質問 **玉川温泉の岩盤浴の冬場再開に向けた進行状況について伺う。**

答弁 玉川温泉地区利用適正化連絡協議会（会長県自然保護課長）は、専門家に現地調査を行っていただき冬期岩盤浴候補地（雪崩事故を発生したテントから北西側に約100mの距離にある地点）を協議、検討をしている。

質問 **田沢湖スキー場をスポーツ振興に必要な施設とするための整備についての考えを伺う。**

答弁 平成19年田沢湖スキー場での国体開催では、雪質やゲレンデについて高い評価をいただいた。県内屈指のスキー場であると自負している。県や県スキー連盟に、国体誘致の働きかけを行っている。

ジャンプ台については、整備の仕方について関係各方面の指導や協力をいただきながら強く要望を継続していきたい。

（平岡裕子 記）

再開待たれる玉川温泉岩盤浴

一般質問

・水力発電について問う

民政会議 門脇民夫 議員

水力発電所について

質問 廃止になっている市内の小規模等水力発電所を再活用できないのか。

答弁 市内には西木町川岱と田沢湖玉川に水力発電所があった。川岱の発電所は発電容量が小さく再会しても採算がとれず、また、玉川の発電所については、現在の玉川発電所と水利が競合するため廃止となったもので再活用は厳しい状況である。

質問 小水力発電事業の進捗状況について伺う。

答弁 県で玉川濁沢に二、五〇〇キロワット級の発電所建設を視野に調査を進めており早ければ二〇二〇年に運転を予定しているとのことである。

期待される小水力発電

市内小中学校のいじめ、体罰問題について

質問 教育長のいじめについての調査結果報告では、看過できないようないじめはなかったとの報告であったが、調査方法が児童、生徒、保護者への一人一人への聞き取りや他人が受けているいじめ被害についても答えやすくなどの工夫をしたアンケート調査方法だったのか。

答弁 （教育長）いじめに関するアンケート調査は、小学校低学年用高学年用、中学校用と別々に準備しており、無記名や記名式にしたり、それぞれ学校の工夫がある。そして、年一回でなく随時や定期的に調査をさせている。また、質問項目にはいじめられたのを見たことがないか等もある。教育委員会はいじめ根絶に向けて各学校の管理職との面接、校長会、教頭会での未然防止の対策、早期の発見、対応、解決に向けて積極的に一生懸命、かつ細やかに対応しているところである。

質問 体罰についての調査は実施しているのか。

答弁 （教育長）体罰については、全児童、保護者、教職員全てに絶対許されない行為である。調査は、今実施中であり、結果報告書が四月に出る予定である。

先日、各学校の校長に電話で聞いたところでは、現時点では体罰の報告はないとのことである。

質問 いじめ防止条例の制定は検討しているのか。

答弁 （教育長）いじめを撲滅するには教育委員会、学校、保護者、地域社会の役割、責務を明確化する条例の整備が大変有効であると考えており、制定している市の情報をよく調査し検討している段階である。

雪害について

質問 今年度の仙北市の雪害について伺う。

答弁 人的被害は自宅の屋根の雪降ろし中の事故6件、除排雪中2件の8件、建物被害は、住家の一部破損2棟、非住家の全壊3棟、農林被害がハウスの全壊16棟である。

質問 空き家の雪害対策について伺う。

答弁 空き家調査の結果、危険空き家となった管理者、所有者等に2月1日付けで適正管理のお願いと解体補助金制度のお知らせの通知をするとともに市広報でも周知した。その結果として、解体に対する補助金申請が1件あり現在審査中である。また、隣接者より空き家所有者に対する積雪の管理指導依頼も多く、その都度所有者宅を訪問し、適正管理と管理不全で事故が発生した場合の財産管理責任を説明し自覚を促している。安全で安心な地域社会形成が図られるよう仮称であるが空き家等適正管理に関する条例の制定を進めているところである。

（阿部則比古 記）

一般質問

・農業政策について伺う

侍志の会 小田嶋忠 議員

質問 市はこれまで産業育成、雇用拡大による所得の向上を図る施策として「所得を生み出す玉手箱」総合産業研究所を開設し、商品開発、市場開拓を公約として進めてきたが、結果として玉手箱は、富、所得を生み出すことは出来なかったのではないかと思う。今の政策のままで所得10％の伸びの達成は不可能ではないか。

答弁 「所得を生み出す玉手箱」という表現については若干誤解があったのかなと思われる。「所得を生み出す玉手箱総合産業研究所」という予算上の名称が農産物研究所は総合産業で10％を上げる研究所なのだと誤解されたようである。10％アップということは市役所全体で所得を高めるという意味で申し上げたことと理解してほしい。

質問 私は、農業は儲からなければならないもの、儲かる農業をしなければならないものとして頭に入れ目指さなければならないと考えている。うまい米づくりについては、付加価値をつけたブランド米構築への取組み、さらには、商品開発後の流通販売等の支援の実情などの課題を念頭に入れながら質問をする。

販売活動の基本的な考え及び方針は何か。

答弁 販売方針は、これまで首都圏をターゲットに観光PRを兼ねた物販イベントへの参加を主眼に実施してきた。

山の楽市などイベント時はもちろんであるがイベント後の取引などに結びついている事例も多々あり引き続き実施すべき活動と考えている。

これ以外にも25年度は、東京料理産直懇談会やこれと平行して市内業者の連携のためのネットワークづくりに着手しようと考えている。

質問 市内各地に現在でも誇りを持って全国的に売り出している商品価値の作物がある。田沢の長芋、下延の芋の子など全国的に売り出しても恥ずかしくない生産物がある。これらは、土壌改良や肥料など研究を重ねた結果、価値あるものへと育っていった。市をあげて売り込む価値あるものがいくつかある。市独自の政策を一層強力に推進する必要があるのではないか。

答弁 昨年商工会主催の「田沢長芋まつり」が初めて開催され大変好評だったと聞いている。今後地域運営体と生産者と連携して生産体制の強化を支援していきたい。

下延芋の子生産者の方々がご高齢にもかかわらず増産意欲が非常に高い。今後、組織作りによる生産体制の強化と企画の外の商品の加工利用などに強化を支援していきたい。

市内にはこれら意外にも地域農産物があるが小口のロットや期間限定でも商談、マッチングに結びつけたいと思っている。一次加工品は、平成24年産まで7トンまで取扱量が増えている。今後とも生産振興や新商品の開発、販路開拓の情報提供や、相談窓口としての役割も果たしていきたい。

商品開発の試食会

質問 地場産作物の栽培力を高める方法として適地選定や土壌分析等を行おうとしているがどの地域をどんな目的で行ったか。

答弁 昨年10月生保内の農業者からの依頼でサクランボの栽培候補地3箇所の土壌分析を行っている。

試験圃場に関わる土壌分析は実施していない。

質問 農業の原点は主食の米だと思う。農家の方たちは試行錯誤を重ね土壌改良、肥料の研究をしながらうまい米作りに挑戦している。しかし、これら有志の努力に頼るだけの農政で良いか。

もっとブランド化を目指すべきでないか。

答弁 今年は、秋田県種苗交換会、来年度は国民文化祭を控えているのでブランド確立の良い機会と捉え積極的に取り組んでいきたい。

（狐崎捷琅 記）

一般質問

・豪雪から市民を守るために

日本共産党仙北市議団 **髙久昭二 議員**

厳しい豪雪から市民生活を守る為に

質問 除排雪の見直し、流雪溝の改修・新設計画、地下水を利用した流雪パイプの設置、除雪計画の見直しや作業関係者・業者への指導徹底、高齢者や一人暮らしの方々に対する安否確認、小中学校児童生徒の通学路の安全確保、雪崩危険箇所の点検や安全対策等々を網羅した仙北市克雪計画を各部署横断し、今後検討すべきではないか。

答弁 提案のあった仙北市克雪計画は、建設部のみならず、市民生活部、福祉保健部、企業局、教育委員会と多分野にわたる対策等が盛り込まれていなければ、その効果を発現できるものではないと思っている。提案をもとに今後、部長等会議を開催し、この計画の重要性を鑑み、どのような形で計画を策定できるか、内容をどうするのか等について研究をさせていただきたい。

質問 安倍政権になり、円安、原油生産国等の諸事情により、灯油やガソリン等の油類の連日の高値傾向が続いており、仙北市民の生活を圧迫している。横手市では、75歳以上の高齢者・一人暮らし世帯、重度障害者、生活保護世帯、計約8千世帯に対し、3月に5千円の灯油券、灯油購入補助券を発行する事が決定された。仙北市でも、市民の強い要望に応えるよう、前向きに検討できないか。

答弁 必要性は十分に感じているが、平成20年に実施した際、公平性を重んじたつもりが不公平感を発生してしまい、多くの混乱を招いてしまったという反省がある。制度構築をする時間を是非いただきたいのが正直な気持ちである。

克雪計画の早期策定を（雪の中の通学風景）

TPP交渉参加推進と仙北夢牧場「大規模肥育牛団地」の問題点等について

質問 TPPに仮に参加し、関税撤廃、関税障壁が撤廃されれば、国産肉牛では乳用種牛肉は壊滅し、和牛も価格が暴落し、北海道全体で17万3千人以上が失業し、3万3千戸が離農を余儀なくされると想定している。県内においても、個人酪農家が壊滅的な打撃を受ける事は必至である。仙北夢牧場も、こうした事態になった場合、無傷で生き残る保障があるのか。TPP問題とあわせ、こうした事態の発生を予測しながら検討するべきではないか。

答弁 肥育牛団地の親会社はTPP参加を見据えた経営戦略を立てており、既に海外への輸出実績を持っている。成果も得られている話を聞いている。仙北夢牧場でも、そのノウハウを生かし、仮にTPPに参加した場合でも、対応できる経営計画を立てていると伺っている。

大規模肥育牛団地整備事業推進と関係市民におよぼす影響及び市の責任について

質問 現段階では関係地域市民への生活におよぼす影響や諸問題がまだ解決されていないと感じる。もう少し腰を据えて検討、再考すべきではないか。

答弁 事業推進にあたっては、環境に対する公害防止等々の各法令を遵守し、細心の注意を払って建設、運営にあたる。関係住民への影響は極力減少するよう取り組んでいきたい。また、地元・事業主体・市との三者で協定を締結し、それぞれの責任の所在を明確にする事にしている。

質問 飲料水の汚染、飲料水の安全供給確保、大規模肥育牛団地で使用される大量の水の確保に対するボーリングなど、水に関する関係地域への影響はないものかどうか、自信を持って言えるのか。

答弁 仙北夢牧場の水の件については、夢牧場自身の工事の中で、水源の確保を図る計画で事業を進めている。

（田口寿宜 記）

一般質問

・大規模直売所について

仁政クラブ **黒沢龍己 議員**

大規模直売所建設計画について問う

質問 仙北市の農業所得アップに繋がる施策として、また、6次産業化に向けた取組が重要であると考える。観光地である当市は季節型の直売所はあるが、通年型の直売所がない、国の政策でも攻める農業が必要であると言われる。私は先般、宮城県と岩手県の直売所を研修してきた。成功例あり、失敗例もあった。しかし、農家の所得アップに繋がる一番身近な選択肢であると考える。建設場所の条件、環境の問題も考えなければいけないと思う。JAやスーパー等に卸しても手数料等問題が山積している。

そこで市の大規模直売所がどうしても必要と思う。市の考え方を伺いたい。

①現在計画があるか②想定される場所は③規模や事業者との話し合いは。

答弁 大規模直売所」の建設計画については国や県で整備に関する支援制度が後押しする中で、私自身大変興味を持っている事案である。本市の農産物等の直売所は現状では16ヶ所であり、季節型12ヶ所、常設型4ヶ所である。中には高齢化等で活動を休止しているところもある。平成22年度の販売額は2億4千万程度であり、数年は横ばい状態である。平成23年7月に仙北市農産物直売所連絡協議会を設置し課題を共有し種々問題に取り組んでいる。また、生産者、各直売所、JA等関係団体と市内における直売所の基本方針を共有していく必要があると考えている。市内に進出予定をしている企業の中には、農林、水産等を使用した、レストラン、直売所、加工販売等6次産業化に取り組むための拠点施設の整備に向けた動きもあることから、競合関係、相乗効果、農業者にとって、市民にとって所得アップに繋がるべく検討中であり、②③については具体策はないのでご理解を頂きたい。攻めの農業に関しては、副市長より補足させる。

答弁 (副市長) 仙北市で現在2件の食用関係誘致企業の事業が始まろうとしている、2社は地元への貢献度意識も高い、誘致企業と組むことにより地場産品のより早い特産化、ブランド化も期待できると考えている。

今年もオープンむらっこ物産館

市の除雪体系について

質問 私は今回、市の除雪について問う。毎年同じようなやり方で進歩していないのではないかと思う。前年度の除雪体系の検証で指揮命令系統が業者に任せきりで、何か問題あれば行動する体制でよいか。そこで私は次の5項目について問う①3地区の除雪機の配置台数 ②総延長 ③除雪機出動の判断 ④シーズンに入る前の現場の確認の指導、⑤シーズン中に市と業者の打ち合わせ連携はどうか。

答弁 3地区の配置台数については現状では、角館26台、田沢湖46台、西木16台である。細部については建設部長より答弁させる。

答弁 (建設部長) ①旧町村間の移動はない。1本の路線を旧町村間で別々に除雪していた部分について1業者に委託 ②角館148・4キロ、田沢湖231・5キロ、西木101・2キロである。③担当職員が午後10時から12時迄パトロールして委託業者に出動指令④シーズンに入る前、担当する路線にポールの設置、障害物撤去の指示 ⑤シーズン中の打ち合わせは特別ない。

答弁 (市長) これまでの除雪対策より一歩踏み込んだ体制が必要と認識した。再度指示を徹底したいと思う。

(稲田 修 記)

一般質問

・市長の基本施政方針を問う

民政会議 安藤　武 議員

市長の基本施政と市長選出馬を問う

質問 施政に関わる課題を延ばす事は、合併特例期間を過ぎた後を考えると、行政運営は限界に達するし、職員の退職者数を見ても、今までの住民サービスが続かないのは明らかである。財政再建団体の原因の多くは、自治体で抱える病院や観光事業である。それに仙北市でも見られるような各会計へ繰り入れる隠れ赤字が、自治体の財政を圧迫している実態の報道があった。常に健全化に向けて努力をしなければならない。

一番怖いのは、当局も議会もこれが当り前の予算編成だという感覚に陥る事である。膨らみ続ける歳出の切り込みが甘い。そして、無駄の排除の努力を怠ったと言われないよう、お互いに努めなければならない。以上のことを踏まえてこの秋の市長選再選を目指す決意の程を伺う。

答弁 現実としては平成24年度の検証でやっとかもしれないが、現任期後半の検証方法の検討、また、至らなかった点に対する指摘や批判を受け止め、改めるべきは改め、伸ばせる部分は大胆に伸ばしながら、次の4年間で仙北市が取り組むべきプランを市民の皆様に提案する準備を進めている。課題を先送りしてはいけない。決意を持って次期市長選挙に挑む覚悟である。

角館庁舎移転計画について

質問 全員協議会において、角館庁舎移転計画についての説明があった。角館庁舎の危険状態からすると、緊急避難をしなければと思う。移転計画には緊急避難的と記されている。緊急避難と避難的の言葉の意味合いは違うと思うが、「的」のついたその理由を伺う。

答弁 (総務部長) 緊急避難的とは、やむを得ずあるいはとりあえずという意味合いであり、長期に渡って緊急避難をする訳にはいかないだろうと判断している。角館庁舎を別の場所に移転するとすれば、一定期間、別の場所で業務を行うという意味合いと理解している。

質問 計画によるとかなりの時間を要する。その間に起こりうる様々な心配を想定するならば、悠長な事は考えていられない。緊急避難というのはすぐに避難しなくてはならないという感覚であり、お金をかけない工夫があってしかるべきだと思うが、市長はどう考えるか。

答弁 市民の方々の最大の納得を頂けるケースで移転をしなければ、行政は市民サービスをその是としているので、その是を覆す事があってはならない。急いでいる部分で見落としてはいけない多くの視点を議会から提示頂き、コンセンサスを得られる道筋を作る事が最も近道ではないかという事も、考えに値するものだと思う。

二つの市立病院について

質問 二つの市立病院を守る事については、何ら異論はない。しかし、今の同じ制度で病院を両立していくには、決算から見ても分かるように大変厳しいものがある。財政の圧迫のトップになり得る事を避けて通れない状態の病院経営である。この状況をどう見ているのか。

答弁 病院は守らなければいけないと思っている。しかし、同じ特徴を有した2つの病院の存在についての考え方には異論がある。一つ一つの病院はそれぞれの機能を高め、お互いに補完し合う関係が好ましい。現在、改革推進計画に基づいて病院経営の改革を行っている。数値計画については一定の成果を上げているが、抜本的な健全経営にはほど遠いと認識している。

（熊谷一夫　記）

緊急避難待ったなし！角館庁舎

一般質問

・緊急のインフラ（社会資本）総点検について

熊谷一夫 議員

緊急のインフラ（社会資本）総点検について

質問 高度成長期に造られたインフラが老朽化の危機に直面している。インフラを緊急に総点検する必要があると考えるが当局及び市長の考えを伺う。

命と暮らしを守るインフラの緊急総点検を行うべきと考えるがどうか。

答弁 市が保有する公共施設の多くが昭和56年の建築基準法改正以前の旧耐震基準で建築された施設なので近い将来には大規模改修や建て替え、廃止等の時期が来るものと認識している。今後は公共施設等の現状を詳細に把握する為の総点検を実施し、計画的な更新等に対処したいと考える。

質問 市の管理しているインフラの実態（橋、道路、学校、公共施設、上下水道他）

答弁 市が管理している主な物は、市道が約８９１ｋｍ、橋梁が５６２ｋｍ、トンネルが８箇所、公営団地１０５棟２７６戸、公共下水道等の終末処理場11施設の管路延長１９７ｋｍ、浄化槽施設６８５基、企業局では13箇所、配水池28箇所で管路延長約３０７ｋｍ等を管理している。

質問 一番古いのは建築後又は竣工何年で、老朽化により緊急に補修・改善を迫られるインフラの数、概算の金額、今後の対策は…

答弁 市役所角館庁舎が一番古く築52年である。橋梁では山伏峠橋で72年が経過している。トンネルは抱返りの６箇所が61年経過等である。橋梁は本年度策定した橋梁長寿命化修繕計画の優先順位に基づき86橋を10年間で７億円の事業費で修繕・改修を計画している。

老朽化が著しい赤平橋

質問 総点検により、インフラの整備事業へ優先順位をつけて、補修・修繕計画で長寿命化を図る考えは無いか。

答弁 現状は、公共施設老朽化の度合いが年々高くなっており、インフラ状況を適切に把握し、計画的な優先順位をつけた整備事業を推進しながら長寿命化を図り、費用の平準化をしていきたいと考えている。

通学路の安全対策について

質問 緊急合同点検実施状況について

答弁 （教育長）昨年６月に通学路の緊急合同点検を実施。24箇所を危険及び要対策箇所とした。

質問 安全対策の策定後の整備進捗状況について

答弁 （教育長）対策済が13箇所、本年度対策予定が８箇所、26年度以降の対策予定が３箇所となっている

質問 通学路の安全・安心確保の為の実施計画はあるのか。

答弁 （教育長）通学路の定期的な点検、街頭指導を実施し児童・生徒への注意喚起を促し、自ら命を守る実践力の育成に努めてまいりたい。

認知症対策について

質問 本市の高齢化率は33.6％で平成30年には高齢化率40％台となると推計される。今、深刻な問題となっている認知症問題について伺う

認知症高齢者の実態と今後の推移について

答弁 本市の要介護認定申請結果は、平成20年が１１１８人で25年には１３５２人の方が認定と推計しているものと推定される。今後、更に増加するものと推定される。

質問 認知症予防への取組みとサポーター制度の施策

答弁 保健師が認知症予防等の健康教育や良質な刺激と脳の活性化を図る為、体操や手芸教室などを定期的に開催している。市内で１２５３名の認知症サポーターがいるが今後も養成拡大に努めたい。認知症サポート医師も居るので今後の対策、施策を進めていきたい。

質問 若年性認知症の患者と家族へのサポート体制について

答弁 市では44人が若年性認知症と認定されている。グループホームが不足している現状なので整備計画を進めたい。包括支援センターを中心に包括ケアシステムを実現し、本人及び家族などが気軽に相談でき、安心して暮らせる環境づくりを目指したい。

（田口寿宜記）

一般質問

・再度廃校利用について

民政会議 **狐崎捷琅 議員**

再度廃校利用について問う

質問 過去に3回ほど廃校利用について質問したが今回はより具体的に質問したい。

私は、廃校になった西長野小学校を総合型地域スポーツクラブに管理運営させるという市のマスタープランには大賛成である。

私はこれに民営化による地産地消の「道の駅」的なものをドッキングさせたら地元の経済も潤うだろうと思うがどうか。

答弁 西長野小学校については活用を促進して維持管理するため、仙北市マスタープランに記載されているように関係者の理解を得ながら指定管理者等への委託を行いたいと考えている。

地産地消の「道の駅」を西長野小学校に持ってきたらという案には現在民間の物産館と花葉館との距離が直線6キロの中間地点にあり、生産者との産直活動や食材提供の連携が図られている。それ故、現在はその様な考えを持ち合わせていないが、あくまで地元や地域の方々の盛り上がりが大切であると考える。

現に何点か地元集落の方々からご提案も頂いている。

質問 学習支援「お助けマン」通称「学びーず」について質問したい。

「お助けマン」は、当初、退職教員が集まって角館で小学生や中学生に勉強を教えたことから始まり、現在では田沢湖、西木、大曲方面からも来て学んでいる。

教える方たちも高校生や一般市民の方にまで広がってきている。資金面は、現在も最初呼びかけた先生のご厚意に頼っている。最近では人数も増え、生徒数も120人以上にもなっているのでコピー代もままならないと聞く。

そこで市民のために頑張っておられる方たちのお茶代、コピー代その他の経費として補助できないか。

答弁 （教育長）日頃からお助けマンの活動は素晴らしい活動だと思っている。

恐らく、全県でもトップクラスで、この噂を聞きつけて前の根岸教育長が視察に来たほどである。ただ、資金面では、スポーツ活動で全くのボランティア活動をしている方たちもおられるのでその方たちとのバランスもとらなければならないということもある。それ故、もう少し検討させていただきたい。

質問 田沢湖球場の特に夜間照明の撤去についてお聞きする。

総務文教委員会で田沢湖球場の夜間照明を撤去するというお話をお聞きしたが、私は夜間照明を撤去すべきでないと考える。夜間照明は確かに維持費も大変で他の自治体でも段々取り去ってきている。

私は、だからこそ田沢湖球場は夜間照明を残すべきだと考える。田沢湖球場に夜間照明があるということで様々な利用価値が逆に出てくるものと思われるし、これを売りにして合宿やイベントを売り込むことも出来ると思われるのでこの点についてお伺いしたい。

答弁 生保内公園野球場については今年度に改修工事が完了し、平成26年4月に使用できる。夜間照明に関しては、利用状況や野球連盟との協議により、撤去の方向で検討してきた。しかし、その後施設の改修で、利用活用が更に図れるというご指摘を頂いているのも事実である。

現状でも使用できる状況であることから公式試合などでは使用できないものの市の方針である交流人口の拡大または事業の開催目的による市のイベント、大会、文化関係等の開催目的によって使用できればと考えている。

いずれ、存続か廃止かは関係団体とかさねて協議を続けていかねばならないと考えている。

（伊藤邦彦　記）

改修中の生保内公園野球場

仙北市議会会派

（平成25年4月1日現在）

会派名 民政会議（みんせい）
代表 伊藤邦彦
副代表 阿部則比古
副代表 安藤武
幹事長 狐崎捷琅
経理兼事務長 門脇民夫

会派名 翠巒会（すいらん）
代表 小林幸悦
副代表 藤原助一
幹事長 田口喜義
荒木田俊一

会派名 侍志の会（しし）
会長 小田嶋忠
幹事長 八柳良太郎
青柳宗五郎

会派名 仁政クラブ（じんせい）
代表 佐藤直樹
副代表 黒沢龍己
幹事長 田口寿宜
髙橋豪

会派名 日本共産党仙北市議団
団長 髙久昭二
幹事長 平岡裕子

会派に所属しない議員
佐藤峯夫
稲田修
熊谷一夫